

会で五十年以上もやっているのは野球のほかにはないのではないだろうか。野球の高校大会を主催してやっている新聞社側の最初の代表者などはもうみんな故人になってしまっているでしょうが、速記の大会は私が始めた本人ですが、それが五十回を越して元気であるのでみな感心しておられるようです。

この大会は最初昭和六年十二月開催したときは、「第一回全国男子中等学校中根式速記競技大会」といっていたのですが、昭和二十三年、学制が変わったため、「全国高等学校中根式速記競技大会」と名称を変えて開催。ついで昭和四十年から「中根式」を取り、「全国高等学校速記競技大会」ということになりました。参加する選手が全員、中根式速記を使っているのですが、参加校側で「中根式」といつて一つの式を明らかにしておくに参加しにくい、また、民間の主催では参加校の職員が、学校から旅費が出にくいという学校が出て来たため、それではといつてこの年から「中根式」を取ってしまったのです。文部省では川上職業教育課長さんなど「中根式を取らなくてもよいではないか」といつておられたのでした。

選抜大会は昭和四十四年から始め、野球の大会と同じように、春は選抜、夏は選手権大会として今日にいたっているのですが、わが国唯一の大会です。

一国内でこういう競技会を開いているのは欧米にもないようですから、この大会は、まだ十分ではないのですが、世界に誇る大会です。昭和二十七年から「文部省後援」という名称が使えるようになり、また